

ひとり 敬亭山に座す (李白)

衆鳥高飛盡 孤雲濁去閑
相看兩不厭 只有敬亭山

衆鳥 高く 飛び 尽くし

孤雲 独り 去って 閑なり

相 見て 両つながら 厭わざるは

只 敬亭山 有るのみ

解説 敬亭山は宣城県の北にある。この山は李白が最も敬愛する斉の謝眺(玄暉)が宣城の太守となった時、よく登って遊んだ。そこで、李白は面影をしのび独りで来てこの山に登り、山の景色をながめて楽しみ自然と一体となったことを詠った。

語釈 ※敬亭山 中国、宣城県の北にある山。※衆鳥 多くの鳥。
※閑 静かな。※相 互いに。※両 李白と敬亭山。

通釈 たくさんの鳥が飛んでいたが、残らず高く飛び去ってしまった。空に浮かんだひとひらの雲も流れ去って、私は一人静かに坐っている。じつと見合って、互いにあきないのは、ただ敬亭山だけだ。